



## 海外および国内経済

### 海外の動向

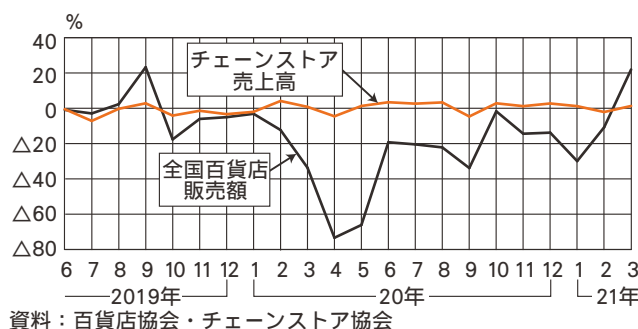
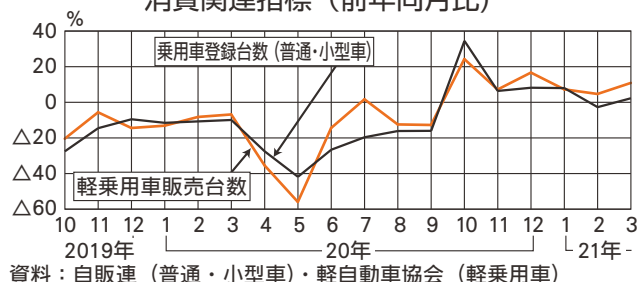
#### 米中の回復よそにユーロ圏はマイナス成長続く

米国の1～3月期の実質GDP（速報値）は年率換算で前期比6.4%増となり、10～12月期の同4.3%増から加速した。巨額の財政出動や新型コロナウイルスのワクチン普及を背景に、個人消費が二桁増と伸び、全体を押し上げた。

ユーロ圏の1～3月期の実質GDP（速報値）は年率換算で前期比2.5%減となり、10～12月期の同2.6%減に続き2四半期連続のマイナス成長となった。新型コロナウイルスの変異株拡大による主要都市のロックダウン（都市封鎖）等が響き、米国と対照的に個人消費が落ち込んだ。

中国の1～3月期の実質GDP（速報値）は、新型コロナウイルスの影響でマイナス成長に沈んだ前年の反動もあり、前年同期比18.3%増と、10～12月期の同6.5%増から急加速した。

消費関連指標（前年同月比）



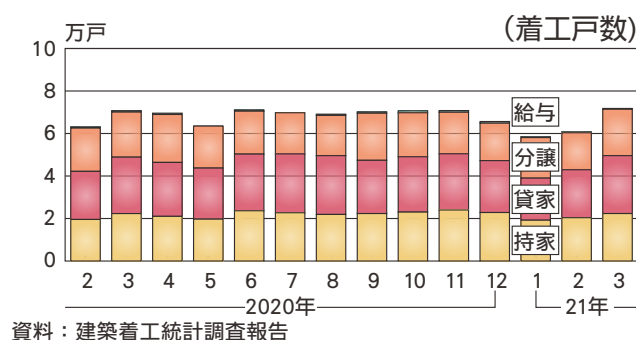
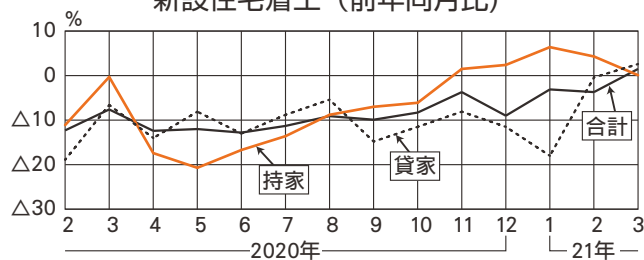
### 国内の動向

#### 国内景気は先行き「下振れリスク」高まる

内閣府は4月の月例経済報告で、国内景気は「新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる」とし、前月に続き総括判断を据え置いた。項目別では、産業用機械や「5G」基地局等の通信機器分野への投資が伸びたことを受け、「設備投資」の判断を「持ち直している」に引き上げた。なお、景気の先行きについては、「内外の感染拡大による下振れリスクの高まりに十分注意する必要がある」とした。

3月の有効求人倍率は前月比0.01ポイント上昇の1.10倍と2か月ぶりに上昇した。完全失業率は前月比0.3ポイント低下（改善）の2.6%だった。

新設住宅着工（前年同月比）





### 個人消費は前年の反動増あるも依然低水準

2月の家計調査（二人以上世帯）では、実質消費支出が前年比6.6%減と、3か月連続で前年を下回り、減少幅も前月（6.1%）を上回った。前年同月のコメやマスク、トイレットペーパー等の「買いだめ」の反動減に、緊急事態宣言の期間延長の影響等が加わり、外食や旅行等の支出が落ち込んだ。

3月の販売関連の統計では、百貨店が前年比21.8%増と18か月ぶりに前年を上回り、スーパーも同1.3%増と2か月ぶりに前年を上回った。前年の新型コロナウイルスの感染拡大にともなう落ち込みの反動増などが寄与した。

一方、乗用車は前年比2.3%増と2か月ぶりに増加に転じ、軽乗用車も同10.9%増と、6か月連続で増加した。

### 住宅着工は21か月ぶりに前年比増加

3月の新設住宅着工戸数は、前年比1.5%増の71,787戸と21か月ぶりに前年を上回った。持家が同0.1%増、貸家が同2.6%増、分譲住宅が同2.8%増と揃って前年実績を上回った。

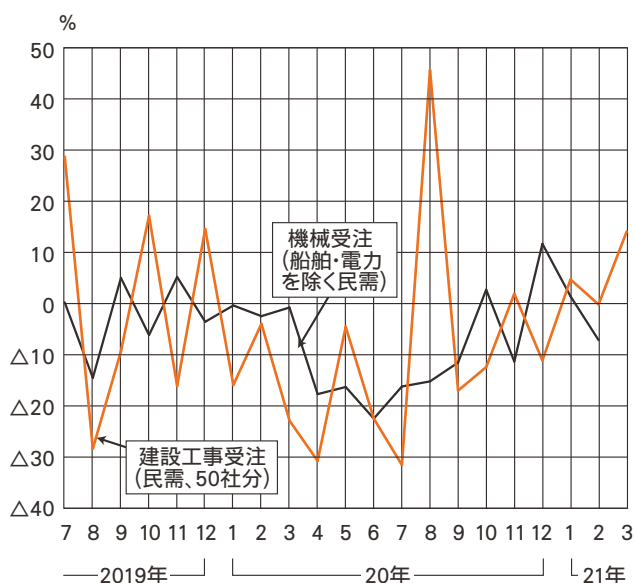
### 設備投資は「持ち直しの動きが足踏み」

2月の機械受注統計では、設備投資の先行指標となる「船舶・電力を除く民需」の受注額が7,698億円、前月比8.5%減と2か月連続で減少した。うち製造業は同5.5%減、非製造業は同10.9%減だった。新型コロナウイルス感染拡大の影響が大きい宿泊業や飲食サービス業を含む「その他非製造業」や「運輸業・郵便業」等からの受注が減少した。内閣府は、基調判断を前月の「持ち直している」から「持ち直しの動きに足踏みがみられる」に下方修正した。

### 鉱工業生産は引き続き「持ち直している」

3月の鉱工業生産指数速報値は、前月比2.2%上昇の97.7だった。前月比上昇は2か月ぶり。全15業種中、「電気・情報通信機械工業」、「汎用・業務用機械工業」等6業種が前月より低下した一方、「自動車工業」、「無機・有機化学工業」等9業種が前月より上昇した。先行き生産予測は、4月が8.4%上昇、5月は4.3%低下の見込み。経産省は基調判断を「持ち直している」に据え置いた。

機械受注、建設工事受注（前年同月比）



生産・出荷・在庫・在庫率  
(季節調整済指数・2015年=100)

